

新日本保険新聞

(損保版)

第1~4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区堀本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2420円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2023

シンニチ保険Web

www.shinnihon-ins.co.jp

購読者専用バックナンバー
閲覧パスワード

tsukuyomi

2024年2月5日 AMまで

*偶数月の第一月曜日正午ごとに変更

日本代協

各地域での代協活動が活発に

第12回日本代協コンベンションを開催



盛大に開かれたコンベンション

日本代協は11月17日13時から、東京・港区のクラウンニコル東京台場で第12回日本代協コンベンションを開催した。コンベンションは小田島綾子会長の挨拶で始まり、次いで来賓として金融庁監督局の三浦知宏保険課長、損保協会の大知久一専務理事が挨拶。その後、功労者表彰とパネルディスカッションなどが行われた。なお、翌18日に行われた分科会では4つのセミナーが開講された。

信頼揺るがしたBM等問題

業界全体が律する必要性

主催者挨拶のなかで、新型コロナウイルスの影響が一段落したなかでの代協活動の現状についてふれた小田島会長は、「地域のボランティア活動や情報の先端を行く勉強会、自社経営体制を強化する実践的なセミナー、工夫を凝らした心温まるCSR行事など、各地での心温まるニュースをたくさん聴かせてもらっている」と話すとともに、



小田島会長

「『各地の代協では事業を通じて若手社員が役割を担い専門性を発揮するなど、仲間同士の新たな能力や人柄を知る時間にもなっているのではないだろうか』と述べるなど、各地域で活発に代協活動が行われているようすを喜んだ。

お客様本意の姿勢を再認識

スピード感をもって取り組み

損保協会の大知専務理事も両問題に言及し、「業界を代表して心よりお詫言ひ申し上げたい」と謝辞。今後の再発防止に向けた取組みについては「当協会としてはこれら



大知専務理事

不正請求事案と共同保険における価格調整事案について言及し、「顧客の信頼を失うような不適切事案が立て続けに起こったことは金融庁としても大変遺憾に思っている」と指摘。「私自身、自動車事故や重い病気を経験してきており、それぞれ



三浦保険課長

の節目で保険に助けられたため、損害保険会社だけでなく代理店の皆様が目撃から並々ならぬ努力をしていることも承知している」と保険業界の意義に理解を示した。そのうえで「今回の不適切事案により、損害保険に携わる多くの方々

どうする損害保険業界、今こそ顧客本位の時

大変悔しい思いだ」と心境を吐露。「損害保険業界が国民からの信頼を取り戻していくためには、改めて損害保険における顧客本位の業務運営とは何かを見つめ直してもらいたい」と再発防止への取組みの徹底を求めた。

三浦保険課長は「顧客の信頼を失うような不適切事案が立て続けに起こったことは金融庁としても大変遺憾に思っている」と指摘。「私自身、自動車事故や重い病気を経験してきており、それぞれ

閉会にあたって日本代協副会長の小俣藤夫氏が登壇。「代協活動を通じて得られる有益な情報を最大限生かし、仲間とラクラクする未来を語り合

次が開講された。損害代理店の「経営の設計図」
■高収益・高賞金を生み出す「経営計画書」の作り方
公認会計士・税理士・税理士法人古田士会計代表社員・古田士満氏
■女性活躍推進とSDGs経営にチャレンジ
㈱KIC代表取締役・今林紗緒里氏
■RPA活用による生産性の向上と、社員一人一人がいそいそと働ける環境づくり
㈱中央ビジネス代表取締役社長・鈴木みづえ氏
RPA事業部・鈴木龍之亮氏